

## 法廷でのあなたの日

### ——陪審の義務——

筆者が一九八一年の夏にカナダ・オンタリオ州のトロント市の裁判所を訪れましたとき、参考資料としていろいろな小冊子を頂き、日本の裁判所と比較して市民に対するサービスの面で大きな差のあることを痛感しました。その中の一冊は、『少額請求裁判所』としてすでに紹介しましたので、今回は素人の陪審員が裁判に参加するときに心得ておくべきいわばマニュアルとして、『法廷でのあなたの日—陪審の義務』と題する一冊を紹介することにします。

陪審という制度はイギリスに起源を有し、主として英米法系の諸国において発達した裁判制度です。イギリスでは当初、大陪審と小陪審の二つがありました。大陪審は二十三名、小

法廷でのあなたの日 村井

村 井 衡 平

陪審は十二名の陪審員で構成されます。そして、大陪審は起訴陪審ともいわれ、その名前のとおり、ある事件を裁判にかけるかどうかを決定する陪審です。裁判所に起訴するかどうか、裁判所に訴えて裁判してもらうかどうかを決めるのが大陪審です。この大陪審はイギリスではすでに廃止されていますが、小陪審に当るものは今でも存在しています。この小陪審は公判陪審とも呼ばれます。事件が裁判所に起訴され、事実審理の手続を経て、裁判所が判決を言渡すに先立って、陪審員は、被告人が有罪か無罪かを判定する仕事をします。ときには、有罪か無罪かを判定する前提として、ある事実が実際にあったかどうかのみを判定する場合もあります。これは

刑事事件の場合ですが、イギリス、アメリカ、カナダ等においては、民事事件にも陪審が関与することがあります。

本稿ではカナダのオンタリオ州で行われている陪審による裁判がテーマとなっており、市民が陪審員となるべく呼び出される手続に始まって、審理に関与し、最終的には判事の指示に応じて陪審としての評決を答申して仕事から解放されるまでの過程がわかり易く解説されています。なお、もともたは現行法は、一九八〇年法の第二十六章に四十八カ条からなる「陪審法」(Juries Act)があります。

### 陪審による裁判 (Trial by Jury)

陪審裁判は、数世紀にわたって、われわれの法律体系の重要な部分を占めてきました。陪審を通して社会の人々は、裁判に直接に関与することになります。それゆえに、陪審は、法律制度であると同時に民主的な制度でもあり、また陪審の仕事は、ときとして個人的に不都合が生じるかも知れませんが、州の住民にとって基本的な民事上の責任なのです。

陪審員としてのあなたは、決定、すなわち、あなたの仲間である市民の生命・財産および自由に影響するかも知れない、ときとして非常に困難な決定をしなければなりません。

われわれの歴史の大部分は、そしてわれわれの法の多くは、あなたが果すような陪審員としての役割を数百年にわたって果してきた、あなたのような人々によって形づくられてきたのです。これらの資料は、あなたが聞いたり見たりすると予想されること、およびあなたが陪審の一員としてなすべく期待されていることを理解するために、あなたの手助けをするために準備されました。

あなたが陪審の仕事のために呼び出されたならば、普通、陪審の仕事に必要な二週間のために、あなたのスケジュールを組み直す準備をすべきです。しかしながら、さらに一週間は休日の予定を立てたり、または確実な約束をしない方が賢明でしょう。なぜならば、ときとして事件が異常に複雑であったり、または裁判所の開廷期間が二週間を経過してしまうことがあります、陪審員は長期間にわたって



仕事をするように要求されるかも知れないからです。同様に、ときにはすべての陪審裁判が迅速にすんでしまうこともあり、通常の二週間の期間さえ必要とされないでしょう。

事実審理における陪審員の義務を彼等に説明するのは裁判所であつて、他のだれでもないことを覚えておきなさい。ここで与えられた情報は、陪審員への単なる一般的なガイダンスにすぎません。あなたが陪審の一員として裁判に参加するとき、ここでいわれていることと、判事から聞かされたことが矛盾していると思ふとき、あなたが従わなければならぬのは判事の説明の方です。

### 陪審の機能 (The Function of the Jury)

すべての人は、法の下に権利を有し義務を負っています。民事および刑事の両事件において、裁判所はこれらの権利を事件の事実は何であるかということ、および結果として生じることとは何かについて法がのべていること、この二つの事柄によつて決定します。すべての裁判において、それがあつた人、他の人々を訴える民事事件であれ、禁止された行為が国王によつて告訴される刑事事件であれ、まず第一に事実が何であるかの事実認定が行われ、次いで、かくして認定された事

実に法を適用することが行われます。適用されるべき法は判事によつて決定され、彼は中立で独立した公平な公務員として裁判を統轄します。何が事実であるかということ、すなわち実際に生じたことを確定すること、そしてそれらの事実を法を適用することが陪審の機能です。

裁判は、問題となつていくべきことの数週間、数ヶ月、またときには数年後に行われます。裁判において、証人は、彼等がそれを記憶しているままに、彼等が知っていることを話すでしょう。ある人は他の人々よりも、より良く記憶しているかも知れません。

ある人は他の人々より以上に、良く見ていたかも知れません。また、ある人は、彼等が証言することすべてを見る立場にはなかつたかも知れないし、そして他の人は、彼等すべてが見たものすべてを覚えていないかも知れません。陪審員の一人として、あなたは、彼等自身で説明するのに困難を覚えたり、神経質であつたり、または他の証人によつてのべられたことに異議を唱えるような証人を見ることでしょう。

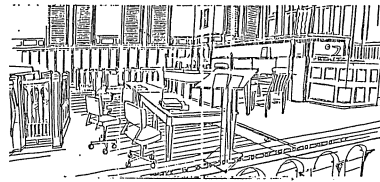
過去のできごとを明確に再現するための科学的な方法や法律上の手段はありません。裁判所に提出される証拠を評価する陪審の男女による、公平で偏見のない人間味のある判断が

あるにすぎません。すべての証言がすみますと、今日の陪審には、数世紀にわたって行われてきたすべての他の陪審と同じ仕事があります。それは、最善をつくして、判事によって説明された法に従って、何が事実であるかを決定し、これらの事実、法によって定められた評決を与えることです。そうすることによって、陪審は、正義がすべての事件において一人一人のためになされることを確保するわれわれの法律体系の大きな目標である神聖な責任を引き受けるのです。

本当のことをいえば、われわれの社会全体は、法の下での正義を基礎にしているのです。どの市民にとっても、陪審裁判の一員として裁判に参加すること以上に、より高度な義務または立派な公共的な奉仕はありません。

### 裁判の関係者 (Participants at Trials)

法廷は判事によって統轄されています。彼は、その中の一人が執行官 (sheriff) であるいく人かの職員によって援助され、執行官は陪審を選定するため、予定されている陪審員を集めることに加えて、法廷において秩序を維持する責任を負っています。二人目の職員は、裁判所書記官 (court clerk) です。彼は、裁判および他の管理する事項について、提出さ



(一一二) 一一一  
れた記録を保管し、宣誓を行わせ、法廷に秩序をもたらし、そして法廷の開廷または休けいを宣告します。三人目の職員は、審理においてのべられたすべてのことを記録する裁判所記録係 (court reporter) です。

判事と裁判所職員に加えて、審理の各側は、普通、弁護士によって代理されます。彼は、法廷では「弁護士」(counsel) と呼ばれます。審理が刑事問題であるとき、女王を代理する起訴者側の弁護士は、普通、「女王の弁護士」と呼ばれ、他方起訴された人のための弁護士は「被告人の弁護士」と呼ばれます。民事事件において、他人を訴えた人は「原告」と呼ばれ、彼を代理する弁護士は「原告弁護士」と呼ばれます。訴訟を提起された人は「被告」と呼ばれ、「被告弁護士」が彼を代理します。法廷の専門用語では、原告と被告は訴訟の「当事者」です。

## 陪審の選定 (Selection of Juries)

民事事件において、陪審は六名で構成されます。刑事事件では、陪審は十二名です。個々の裁判のための陪審員は、

「陪審員候補者名簿」(Jury panel)として知られている市民の大きな一群からくじで引かれます。この名簿は、裁判管区に居住しているカナダ市民から無作為に選ばれた全自治体の一断面を示しています。裁判のための陪審の選定は、判事の監督の下に、それぞれの側の弁護人によって、陪審員候補者名簿から行われます。

### 刑事裁判のための陪審の選定

刑事裁判のために陪審を選定することは、民事裁判のために陪審を選定すること、かなり異なっています。被告人が陪審によって審理される刑事事件の場合には、陪審員候補者名簿ののっている陪審員が法廷に集められます。そして、「罪状認否手続」(arraignment)または起訴状の朗読および被告人がこれらの起訴状に対してする答弁に立ち合います。もし、答弁が「無罪」であれば、そのとき、国王は、非難されていることについて合理的な疑の余地のないよう立証しなければなりません。被告人が「無罪」の抗弁をするときに限

って、陪審員候補者名簿から陪審員を選定することが必要となります。

陪審員が一人また一人と選定されようとするとき、名前は、陪審員候補者名簿の全員の名前が入っているカード・ボックスから無作為に呼ばれます。名前を呼ばれたとき、それぞれの陪審員は、被告人が彼を見ることができるよう、そして彼が被告人を見ることができるよう、陪審員席の前に立つように求められます。

通常は二十名から成るグループが集められ、彼等の名前が選ばれた順に、グループから一人一人、別々に呼ばれます。

国王の弁護人と被告人の弁護人の双方は、法の下で、ある人がその審理において陪審員となるには不適格であると思われる事情が存在すると彼等が考えるとき、陪審員予定者が審理に参加することに對して、異議を申し立てることができません。これは「陪審員の忌避」(challenge for cause)と呼ばれています。たとえば、どちらかの弁護人が、審理に提出されるべき事項についてすでにある人がなんらかの見解を有しており、しかもそのことが事件における彼の判断に影響を及ぼすと思うとき、その弁護人は、それを理由にして、その人を忌避することになるでしょう。もし、このような忌避の

申し立てがなされるならば、二名の陪審員は、宣誓の上、忌避された人が審理の陪審として席につくべきか、または免責されるべきかを決定する責任を負わされます。

さらに、被告人の弁護士および国王の弁護士は、それぞれいかなる理由も示すことなく、陪審員予定者を除外するために使用できる多くの忌避を行います。これらは「専断的忌避」(peremptory challenge)と呼ばれます。

国王の弁護士は、また、陪審員予定者に、陪審員候補者名簿の残りの人が呼ばれまで待機すること、または席をはずすことを求める権利を有しています。もし、全名簿が呼ばれたのちになっても、完全な陪審が選定されなかったならば、待機している人は、陪審の選定が完了できるように、もう一度名前を呼ばれるでしょう。

不適任となる理由がきわめて明白な場合を除いて、陪審を忌避したり、待たせたり、選定したりする過程は、多分に、弁護人を含んだ裁判所の能力の問題なのです。彼等は、事件の性質、被告人についての何か、および審理の間に生じると思われる争点の種類を知っています。彼等は、これらの要因を彼等がもつことができるか、または陪審員予定者から推論できるいくらかの量の情報と結びつけて、迅速な判断をする

ように要求されます。ある陪審員が待つことを要求されたり、または忌避されたという事実は、彼の能力とか信用とか社会的な地位を反映するものではありません。

#### 民事裁判のための陪審の選定

民事陪審の選定は、刑事事件における陪審の選定に比べて、はるかに形式ばっていません。書記官によって無作為に名前が選ばれる人は、陪審席に入ることを要求されます。そのとき、それぞれの弁護士は、「専断的忌避」をすることができません。忌避がなされるたびごとに、新しい名前が引き出され、そして新しい人が陪審席に入ります。民事裁判においては、忌避はそれぞれの側に四回までできます。そして、手続は、通常、きわめて迅速に完了されます。

#### 審理の手続 (The Trial Process) — 刑事

審理を開始する判事は、陪審に対して「事実の審判員」(Trier of the fact)としての彼等の役割を説明するのが慣例となっています。審理における陪審員の義務を説明するのは判事であって、他のだれでもないということをおきなさい。あなたが陪審の一員として出席し、このパンフレットにのべられていることと、判事があなたに話したことが

矛盾していると思うとき、あなたは判事の説明の方に従わなければなりません。

刑事事件の審理において、国王の弁護人は、そこで国王のために事件を開始します。通常は犯罪事実の記載書から始め、国王が立証しようとすることの一般的な証拠がどのように提出されようとしているかに及んでいきます。冒頭陳述(Opening statement)は、判事や陪審を助けるため、証拠に従ってなされるものであって、それ自体が証拠ではありません。陪審は、提出された証拠を基礎としてのみ事実を認定することができ、弁護人の陳述を基礎にするではありません。

しかし、ある場合には、合意事実陳述書または他の書面による証拠の形式で、真実が証明されることができません。証人は、通常、国王の事件を立証するために呼び出されるでしょう。国王の弁護人は、彼等から話を引き出すために証人に尋問するでしょう。この証人への最初の尋問は、「直接尋問」(direct examination)とか、「主尋問」(examination in-chief)と呼ばれます。国王の側の各証人が証言したのち、被告側の弁護人は証人に尋問を要求する機会をもちます。反対尋問(cross-examination)は、証拠の正確さと信頼性をたためす目的のためになされます。すなわち、主尋問において欠

けていたり、または軽く触れられたに留まった事項を明らかにし、もしくは強調し、そして、陪審が証人はできるだけ正確にすべての真実を話しているかどうか、見分ける決定をするのに手助けをします。弁護人は、もちろん、特定の証人に反対尋問をしない決定をしてもよろしい。

国王の側の手続が終わったとき、もし被告の側が証拠を要求する旨を決めたならば、そのあと、尋問および反対尋問の同じ手続がくり返えされます。

審理の進行中、尋ねられた質問とかなされた答弁に対して、弁護人によって異議(Objection)がのべられるかも知れません。判事は異議について判定し、必要な場合には適切な説明を陪審に与えるでしょう。これらの異議とか説明は、陪審の決定が審理における争点と法律上で関連のある証拠にもとづいてなされることを確保し、また数百年にわたって展開されてきた信頼性の最少限度のテストに適合するように意図された証拠法を基礎にしています。

そのほか、刑事裁判において全く普通に生じることは、陪審員に対し、専門的な法律上の議論がなされている間は法廷に留まることが要求されるということです。このことは、ある証拠を陪審員の前に提示することが法によって許されるか

どうか、判事が決定することを要求されるときに生じます。そのような手続は、「予備尋問」(voir dire)と呼ばれ、ボワー・デイアーと発音されます。もし、判事が陪審員によって証拠が審理されるのが適切であると認めるならば、「予備尋問」が終了のち、正当な手続で提出されるでしょう。もし、判事が別の方法を決定し、法は問題となっている証拠を使用することを許さないと判断すれば、その証拠は認められず、陪審員の判断がそれを基礎にして行われる事件の一部を構成することはないでしょう。陪審が冒頭において、証拠として許されるかどうかの問題が決定されるまで、その公平さを留保するように除外されているのは、この理由にもとづいているのです。

すべての証言が行われたのち、それぞれの弁護人は陪審のために彼の事件を要約します。これもまた、陪審員が証拠および争点をより良く理解するのに手助けを与えることによって、彼の義務を遂行するのに役立つでしょうが、事件における証拠ではありません。

### 陪審への説示 (Charge to the Jury)

弁護人による最終弁論に続いて、判事が「陪審に対する説

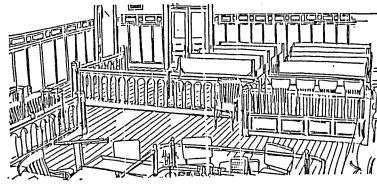
示」をするでしょう。陪審員がこの事件で適用されるべき法律は何かについて正確な説示を与えられるのは、このときです。判事は、国王が法律の中で有罪を確立するために立証しなければならぬ事実の要点をのべ、また陪審員が彼等の評決を考えるため退席するとき、彼等が果さなければならぬ義務について助言するでしょう。判事の説示が終われば、事件は陪審員の手にゆだねられ、彼等は法廷をはなれます。陪審室において、彼等は陪審長を選出し、判事の説示に従って証拠を評価し、そして彼等の評決を考えます。

このような熟慮が行われている間はいつでも、陪審は、その義務が不正確であったり、またはいくつかの点について、さらに説示または説明を要求するならば、それは判事に申し送られるでしょう。彼は、特定の問題または困難な事態を解決するために適切な行動をとるでしょう。

### 審理の手続—民事

民事裁判の基本的な原理は、刑事裁判のそれと同じです。すなわち、証人尋問、反対尋問、弁護人による冒頭および最終陳述などです。陪審は、証拠および適用される法についての判事からの特別な説示に従って、事実を認定し、評決





(verdict) を与える任務を遂行します。しかしながら、民事と刑事の審理の間には、いくつかのちがいがありません。それについて、簡単にのべなければなりません。

刑事裁判と民事裁判の第一に、そしておそらく最も明らかな相違点は、民事の裁判または訴訟において、ある人が他人に対し、法律上の請求をしようと企てるという事実にあります。民事訴訟の目的は、ある人が罪を犯したかどうかを決定することではなく、当事者が解決できないで、

裁判所にもち込まれた私的な紛争を解決することにあります。民事裁判と刑事裁判のもう一つの相違点は、陪審によって答申される評決にあります。民事陪審は、ちがった方法で答申するように指示されるでしょう。判事によって提出された質問に返答するように求められたり、または単に「原告のため」もしくは「被告のため」に認定することを求められるでしょう。加えて、民事陪審は、しばしば、被害者の蒙った損害額を評価し、賠償金として公正かつ適切な金額を得る責任

法廷でのあなたの一日 村井

を課せられるでしょう。

刑事事件において、評決は全員一致の陪審によってのみ達成されるけれども、民事事件では、六名のうち五名の陪審員で評決を見出し、または質問に答えることができます。

刑事裁判の審理と同様に、民事陪審の仕事は、陪審長が公開の法廷で陪審の評決を公表したときに終了し、そして解放されるでしょう。

### 弁護人の役割 (Role of Counsel)

対立当事者制度のもとにおいて、裁判は法律家の間の争いではないということを記憶することが大切です。弁護人は、勝訴も敗訴もしません。弁護人の役割は、彼の依頼者または国王の事件を、法の前で完全かつ公正な審理が行われるように、すべての人の権利に従って、最善の能力をつくして代理することにあります。陪審員は、弁護人に対するものも含めて、審理を通して展開されるどのような感情にも流されず、事実と法律を基礎とし、結論に到達しなければなりません。

### 記録をとりとる (Note-taking)

陪審員は、通常、審理の間に記録をとってはいいけません。法に照らして、陪審員のだれかが作成するかも知れない記録にたよるよりも、すべての陪審員の記憶および印象による方が望ましいと考えられています。判事は、この問題についてあなたに説明するでしょう。

### 宣誓 (Oath)

裁判所に提出された証拠は、宣誓の上での証言をもとにしています。大多数の事件において、証人は、聖書の上に手をおいて、彼の証拠が真実であることを宣誓します。このことは、しかしながら、つねにそうとは限りません。ある人は聖書を使わない宗教に属するかも知れないし、他の人はそれによって宣誓しないことを選ぶかも知れないし、また他の人はどのような形式によって宣誓することも、彼等の個人的信念によって許されないかも知れないからです。これらの場合に、法は、彼等がのべようとしていることが真実であることを真面目に確約するか、または彼等の信念に従って拘束力があると認められる形式で宣誓することを証人に許すでしょう。

法廷で一般に用いられることが法によって認められている真実に関する宣誓または確約 (affirmation) という形式は、陪審員によって、いずれも有効なものとして考慮されます。

### 議論されるべきでない場合 (The Case Not to be Discussed)

陪審が評決を考えるために退席するまで、各陪審員は、証拠または審理について、彼または彼女の配偶者を含むだれとも議論することなく、彼または彼女自身で証拠を評価しなければなりません。

事件に含まれているか、事件に関係のあるだれかが、直接または間接に、事件について、またはそれに関連する事項について、陪審員と話しをすることは、裁判所侮辱 (contempt of court) に当たります。脅迫・買収または他の不正な手段によって、陪審員の行為に影響を及ぼそうとするどのような試みも、きわめて重大な犯罪行為なのです。これと同様に、陪審員が、陪審人として何かすること、またはしないことによって、法の定める報酬以外の賄賂または他の約因をうけ取ることは、きわめて重大な刑事上の犯罪です。陪審員としてのあなたの義務に関連して、だれかがあなたに近づくととき、あ

あなたはそのことを直ちに執行官に通知すべきです。

あなたは、あなたの陪審としての審議または議論に関するなんらかの情報の開示について、刑法典に次のような条文のあることを知っておくべきです。

第五七六条・二 陪審のすべてのメンバーにとって、

a 陪審員に関する第一二七条の二のもつて申し立てられている犯罪の調査および

b そのような犯罪に関する刑事上の訴訟手続において証拠を与えること

を目的とする場合を除いて、それが法廷に存在せず、その後、公開の法廷で開示されなかったような、陪審の訴訟手続に関する情報を開示することは、即決裁判で処罰されるべき罪を犯すことになる。

### 決定の時期 (Time for decision)

陪審員は、判事が陪審に彼の説示をのべ、陪審が評決を得るために退席するまで、決定のための時期はこないということをつねに覚えておくべきです。われわれの法律制度の作用の中で、陪審の決定に結びつけられる重みおよび結末を考えるならば、陪審員がすべての証拠、すべての議論および法律

法廷でのあなたの一日 村井

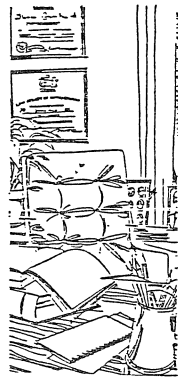
に関するすべての説示を聞き、それらを考慮するまで、すべての争点について、わだかまりのない心をもつことが重大なことです。審理は多くの変化を伴い、そして事件が流動するにつれて、各陪審員は、もし正義がなされるべきであれば、公正かつ客観的な方法で対処しなければなりません。

### 遅延 (Delay)

執行官と彼の職員は、陪審員の名簿を作成し、最小の行動で選定手続に入るため、彼等のなしうるすべてのことをすけれども、ときには、陪審員に予定されている人々が十分に時間をもつことになる場合があります。それは、たとえば、陪審員が呼び集められたのち、訴訟の当事者が審理の直前に事件を解決するような場合です。これによって、次の事件の弁護人および証人に連絡がつけられ、別の審理が準備されるまで、手続の遅延を生じるでしょう。名簿にのっている人々は、その日の仕事を免ぜられるか、またはしばらく待つように求められるでしょう。あなたが陪審の義務をつとめるとき、手紙をかく道具、編物またはその他、時間をつぶすのに役立つ何かをもっていることは賢明なアイデアです。しかし、陪審のメンバーは、審理が現実に行進中、法廷で行われ

ていることに細心の注意を払うことを要求されます。このことから、審理の手続をはなれて、あなた自身のこと、または他のことに注意をそらすような何かを読んだり、したりしてはなりません。

### 支払 (Payment)



陪審の義務を果すために呼び出された人々は、一日についていくらという手当に加えて、裁判所への往復の

交通費を含む合理的な費用の支払をうけます。支払のための詳細な取り決めは、執行官によって、陪審員候補者名簿を裁判所に報告するときに行われます。陪審員は、彼等の食費のみを支払います。

### 裁判所の予定表 (Court Schedule)

裁判所は、一般に、標準的な執務時間に従っています。陪審の義務のために呼び出された人は、通常、仕事の期間が続

く間は、毎夕、帰宅することが許されます。合理的にみて、生じるかも知れない唯一の例外は、陪審が夜に入っても審議を続けたか、評決に達することができなかったという場合です。このような場合、陪審員は宿泊施設を提供され、帰宅は許されないのでしよう。だが、このようなことはまれであって、判事や弁護士は、しばしば、陪審員がその日のうちに審議を行い、かつ、それを完了することができるように、事件の成り行きを整理することにつとめます。

判事が陪審に説示をしたのち、陪審がその評決を公表するまでの間、陪審員は陪審室の外にいるだれとも話しをしてはならないということに注意しておくべきです。ただし、判事に尋ねるために判事および陪審室の係りの廷吏と話しをするという限られた目的の場合は、この限りではありません。

### 服装 (Dress)

法廷の関係者は、清潔できちんとし、しかも品位のある服装をすべきであるという慣習を守ること以外に、陪審員の服装に関して特別に要求されることは何もありません。覚えておくべき重要なことは、途方もなく高価であったり、非公式であったり、または人の気を散らすような服装は、他人の法

律上の権利または個人の自由が問題になっている場所にふさわしくないということです。たとえば、弁護士は、法廷外での彼等の個人的な好みに関係なく、裁判所の面前で、彼等の依頼者のために充分な威厳のある姿を示すために、黒っぽい質素なガウンを身につけています。

#### 陪審の仕事を免除しようとするための申請

(Application to be Excused from Jury Service)

重い病気または異状に困難な事態などの場合、仕事の日時を延期してもらったり、または極端な場合は仕事を免除してもらうことができます。もし、あなたがこのような考慮をあなたに適用してもらえると信じるならば、あなたの地区の執行官に連絡をとりなさい。

#### 場所的な状況 (Local Conditions)

駐車場のようなある種の施設は、州の裁判所ごとにちがっています。もし、あなたがより多くの情報を得たいならば、あなたの郡または地区の執行官に請求して下さい。

追記—本稿は、昭和六〇年度の大学院特殊講義の前期に、

法廷でのあなたの一日 村井

佐伯裕昭、坂上真美、佐野元彦、林浩嗣の四名が輪読したものの一部で、文責はすべて筆者にある。